



市民防火のつどいの開催

長崎県 長崎市婦人防火クラブ

1 はじめに

長崎市は、長崎県の南部に位置し、五島灘、橘湾、大村湾が広がり、鎖国時代の日本において唯一西洋に開かれた場所として知られる出島もあり、異国情緒豊かな町で、人口は約43万人となっています。

長崎市婦人防火クラブは、昭和38年11月、市中心部から遠隔地にあり家屋密集度の高い「式見町」に長崎市第1号のクラブが誕生しました。結成当初は、自治会・婦人会等に結成促進を働きかけましたが、なかなか理解が得られず、思うように結成促進が図られませんでした。

しかし、機会あるごとにその重要性を説明し続け、結成したクラブの活動状況がメディアに取り上げられるうちに、徐々に市民の間にクラブ結成の意義・活動等が評価されるようになりました。

以後、市周辺地域、高台家屋密集地域を中心として急速に結成が進み、平成29年4月1日現在では、市内320クラブ3万7,242人の大規模な組織に成長し、長崎市の市民防火組織の中心的役割を果たしています。

2 長崎市婦人防火クラブの活動状況

婦人防火クラブ結成の目的は、家庭を預かり火を使う機会の多い主婦が、火災の予防に関心を持ち、さらに、火災に遭遇した際の初期消火、通報、避難等についての知識と技術の習得を図ることにあります。長崎市婦人防火クラブではその目的を達成するために、幹部研修会や普

通救命講習、長崎県消防学校の婦人防火クラブ課程への入校、火災予防週間に伴う防火広報、各地域における防火・防災訓練、市民防火のつどい、会報の発行等、1年を通じて様々な活動を行っています。



普通救命講習 I



地域における防火・防災訓練

3 市民防火のつどい・婦人防火クラブ長崎地区大会

今年度は、平成29年11月17日（金）、長崎ブリックホールにおいて（一財）日本防火・防災協会や長崎市婦人防火クラブ連絡協議会など4団体の共催による「第49回市民防火のつどい・平成29年婦人防火クラブ長崎地区大会」を約1,100名

の参加者を得て盛大に開催しました。

この大会は、地域の火災予防に重要な役割を果たしている婦人防火クラブを主体に市民防火組織の構成員等が一堂につどい、防火意識の高揚と会員相互の連携意識を深め、火災のない安全で安心な住みよいまちづくりを目指し毎年開催しているものです。

4 式典

第1部では、長崎市長から安全功労者内閣総理大臣表彰及び安全功労者総務大臣表彰を受賞された2団体に対して、表彰伝達が行われました。その後、永年にわたり各地域の婦人防火クラブや少年消防クラブの会長として地域の火災予防活動に従事された方に対して、長崎市消防局長表彰が行われ、婦人防火クラブ会長在職30年表彰1名、20年表彰2名、10年表彰16名、少年消防クラブ会長在職10年表彰1名の計20名の方が受賞されました。

表彰終了後、長崎市婦人防火クラブの松本会長が登壇し、参加者全員で防火宣言を行いました。



表彰

5 講演

第2部では、「笑って健康になろう」のスローガンを掲げ長崎を笑顔で明るい街

にするために、笑いを広げる活動をなされている「ながさき笑いヨガ」倶楽部代表 岩本 千恵子講師に「笑顔によるコミュニケーション」と題して、実技を交えながらの講演をしていただきました。講演中の会場内は、笑いヨガの大きな笑い声に包まれ、終始活気のある雰囲気での講演となりました。

6 アトラクション

第3部では、婦人防火クラブ5クラブによる舞踊やコーラス、幼年消防クラブの和太鼓、地元大学生による「エイサー」の演技が披露され、各クラブや団体の思考を凝らした演技に会場は大いに賑わいました。



幼年消防クラブアトラクション

7 おわりに

市民防火のつどいは、来年度で第50回の節目の年を迎えます。この間、高齢化社会の到来や人口減少など、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。この変化に伴い、活動においても様々な課題や問題が生じていますが、火災のない安全で安心な住みよいまちを作るために、自助・協力の精神のもと、婦人防火クラブが一体となり地域の皆さんと一緒に活動していきたいと思えます。